

平成28年度天皇杯受賞者受賞理由概要
むらづくり部門

柑橘の有機栽培からスタートしたエコロジカルなむらづくり

○集団等の名称 地域協同組合 無茶々園（代表 宇都宮 俊文）

○所在地 愛媛県西予市

○受賞理由

・地域の沿革と概要

西予市は、愛媛県西部に位置し、総面積は514km²、人口は約4万人（平成28年2月現在）である。基幹産業は農林水産業で、多彩な自然環境や特異な気象条件を反映し、四国一ともいえる多品目産地となっている。

狩江地区（旧明浜町）は、周囲をリアス式海岸と急峻な山々に囲まれており、温暖な気候である。農業と漁業が主要産業で、石灰岩を石積みした段々畑において、良質な柑橘が栽培されている。狩江地区の人口のうち65歳以上の割合は47%（平成22年）に達し、高齢化が進んでいる。

・むらづくり組織の概要

- ① 昭和49年、農薬や化学肥料の使用を前提とした近代農業に疑問を持った青年農業者3名が、西予市狩江地区の急峻な段々畑の一角で、15aの農地を借り受け伊予柑の有機栽培を開始した。
- ② 平成元年に「農事組合法人無茶々園」へ移行し、平成5年には、農産物の販売等を行う総務部門を担う「株式会社地域法人無茶々園」を、平成13年には、大規模有機農業を実践し、直営農場を運営する「有限会社ファーマーズユニオン北条」を設立した。平成25年には、福祉事業に参入するため、「株式会社百笑一輝」を設立した。
- ③ 平成16年に設立した任意組織の「地域協同組合無茶々園」は、これらの4法人をまとめて、事務局機能を担っている。

・むらづくりの取組概要

（1）農林漁業生産面

- ① 国内有機農業の先駆けとして、無農薬・無化学肥料栽培を基本として、柑橘栽培における品質管理を徹底し、「顔の見える関係」を重視した販売戦略を行っている。
- ② 柑橘の加工品に加え、柑橘の果皮エキスや真珠貝等を主原料としたコスメブランドを設立した他、地元の水産物の加工・販売にも取り組んでいる。
- ③ 大規模農場等を活用し、研修生の受入体制を充実させ、新規就農者の育成に取り組んでいる。

（2）生活・環境整備面

- ① 地元漁業者と連携し、地域住民や消費者を巻き込んで、宇和海の環境を維持・向上するため、「豊かな山と海の環境づくり」を実践している。
- ② 女性が活躍する介護事業や配食サービス、ジオポイントの段々畑の観光など、雇用の場を創出し、地域の活性化に取り組んでいる。福祉施設の開設については、老後も安心して住み続けられると、地域において高い評価を受けている。
- ③ 高齢者の「生きがい農業」を推進するとともに、「みかん収穫体験」や食育授業など都市消費者等とも積極的に交流し、環境保全の重要性をPRしている。

・他地域への普及性と今後の発展方向

農業生産組織であった無茶々園が、漁業者と連携して地域環境の保全と漁業の振興を図るとともに、高齢者の生きがいを創造するための地域づくり活動にも取り組んで成果を上げている。この活動は多くの条件不利地域のむらづくりのモデルとなることが期待される。

観光事業の拡充、農家民宿の開設や廃校小学校校舎を拠点とした直売所の新設を計画する等、更なる地域づくりにチャレンジしており、今後の発展が大きく期待できる。